

緒言

土屋弘行

Hiroyuki TSUCHIYA

金沢大学大学院
医学系研究科
機能再建学(整形外科学)

皆さんは、CRF (chronic renal failure : 慢性腎不全) と CKD (chronic kidney disease : 慢性腎臓病) の違いをご存じだろうか。CRF は聞き馴染んでおられても、CKD との違いを答えられる方は、意外と少ないかもしれない。

CKD は、2002 年に米国腎臓財団から提唱された概念であり、比較的新しいものである。CKD は、基本的には原疾患に関わらず、慢性に経過する腎臓の病気を包括して扱う疾患概念である。GFR (glomerular filtration rate : 糸球体濾過量) と蛋白尿(あるいはアルブミン尿)のみからその重症度が評価され、この疾患概念が確立したことにより、腎臓病診療の標準化は大きく進展した。一方 CRF とは、慢性的に低下した腎機能状態のことを指す。急性腎不全では、多くの症例で腎機能は回復することが多いが、慢性腎不全では腎機能の回復は望めないため、治療の第一目標は、維持透析や腎移植などが必要となる極度に腎機能が低下した ESKD (end-stage kidney disease : 末期腎不全) へ至ることを阻止すること、あるいはその時間を可能な限り遅らせることとなる。現在、本邦における維持透析患者数は 30 万人を超えている。これは、日本人全体の約 425 人に 1 人が維持透析を受けている状態であり、いまだその数は増加している。国民総医療費の 4% 弱が透析医療に投入されており、医療財源を圧迫する大きな問題となっている。そのため、生活習慣病との関連も深いこの CKD は、内科などの分野で既に広く取り組まれており、今や整形外科の一般診療においても CKD を理解し、治療や投薬を行うことが重要となってきた。

本特集では、整形外科と慢性腎不全に造詣の深い、各領域で第一線に立つエキスパートの先生方に解説をお願いした。名古屋第二赤十字病院の安藤智洋先生には、「慢性腎不全患者の周術期のマネジメント」として、慢性腎不全患者の整形外科的手術を行う際の注意点について、解説いただいた。また、金沢大学附属病院の山本憲男先生には、「骨粗鬆症と CKD」として、整形外科医にも理解しやすいよう、CKD の概念についてご解説をいただくと同時に、整形外科でも投薬を行うことが多い骨粗鬆症治療薬と CKD との関連につ

いても、解説いただいた。那覇市立病院の岳原吾一先生には、「慢性腎不全患者における手根管症候群とばね指の Day Surgery」、名古屋セントラル病院の梁瀬誠先生には、「破壊性脊椎関節症(DSA)の診断と治療」、笠岡第一病院の橋詰博行先生には、「肩障害」について、慢性腎不全状態に伴う整形外科的疾患の診断とその対処法を、それぞれ解説いただいた。

皆さんは日常診療において、どの程度血液や尿検査を行っておられるだろうか？ 外来診療時などでは、このような検査をほとんど行っていない方も多いのかもしれない。本特集が、諸先生方の日常診療を見直す一助となれば幸甚である。